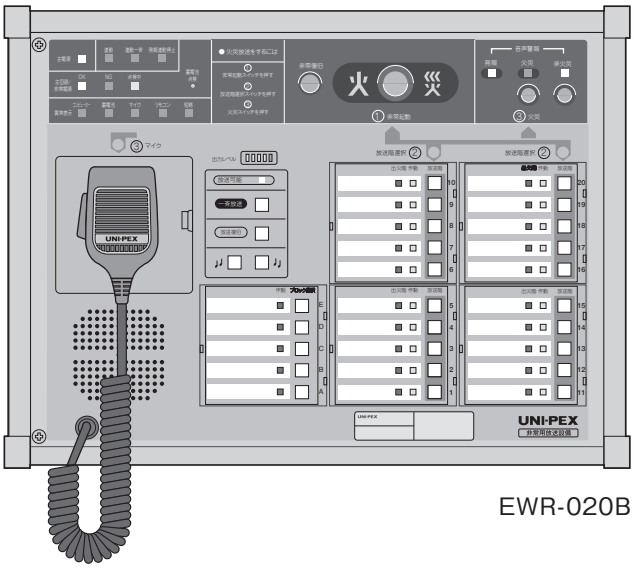
UNI-PEX

取扱説明書(保証書付)

壁掛形非常用リモコン

連動式･10回線 **EWR-010B**　連動式･20回線 **EWR-020B**



EWR-020B

このたびは、当社の製品をお買い上げいただき､誠にありがとうございます。

目　次

特長……2
安全上のご注意……3、4
使用上のお願い……5
非常放送のしくみ……6、7
各部の名称と説明……8～11
非常放送のしかた(1)～(6)……12～17
■感知器起動（発報連動）……12
■感知器起動（発報連動停止）……13
■発信機・非常電話起動（発報）……14
■発信機・非常電話起動（火災）……15
■手動（発報）……16
■手動（火災）……17
後押し優先方式について……18、19
その他の動作……20
表示カードの使いかた……20
日常点検……21～23
■点検について……21
■電源の点検……22、23
こんなときには……23
定格・付属品……24
サポートのご案内……24
保証書……24

特　長

●非常操作部、非常・業務放送出力選択部、モニター部で構成された非常・業務兼用のリモコンです。
●蓄電池、リモコン回線、スピーカー回線、非常・業務兼用マイク、コンピューター自身の自己診断機能付きです。
●必要な場所だけに放送できる、ブロック指定放送が可能です。
●非常放送以外に、一般業務放送も可能です。
●コールサインの上り４音、下り４音選択スイッチ付きです。
●業務放送にマイク優先回路を搭載しています。

安全上のご注意　必ずお守りください

●設置工事の前に必ず、この「安全上のご注意」と工事、取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しく設置してください。
●お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

◯記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。左図の場合は一般的な行為を指示する表示です。

⚠危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

蓄電池を分解／改造はしない

電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

蓄電池を火の中に入れない

火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。

蓄電池の＋／－端子をショートさせない

発熱、発火の原因となります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。
ただちに分電盤の電源を切り、保守契約店または工事店にご連絡ください。

工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。
工事店にご相談ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線、スピーカー線には触れない

感電の原因となります。

分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。点検時以外にこの機器の裏ぶた、カバーなどは絶対に外さないください。
内部の点検・整備・修理は保守契約店または工事店にご依頼ください。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切って、
保守契約店または工事店にご連絡ください。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。

決められたヒューズを使う

規定以外のヒューズを使うと火災の原因となります。

安全上のご注意　必ずお守りください

⚠警告
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

定期的に点検をする
非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。点検は保守契約店または工事店にご依頼ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災・感電の原因となります。

蓄電池の充電は、必ずこの機器を使用する
この機器以外の充電器を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

蓄電池の寿命は4年です。4年毎に必ず新しい蓄電池に交換してください。また寿命は使用状態により違いますので、それ以前でも点検のときに、容量不足があれば新しい蓄電池に交換してください。火災のとき動作しない原因となります。交換は保守契約店または工事店にご依頼ください。

⚠注意
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない
火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

指定以外の蓄電池は使用しない
蓄電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

蓄電池に張ってあるビニールカバーははがさない
ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

重量に耐える場所に取り付ける
取付場所の強度が不充分なとき、落下したりしてけがや破損の原因となることがあります。

蓄電池は、必ず点検をおこなう
蓄電池の点検は日常点検のほかに、外観点検および機能点検は6カ月に一度以上、総合点検は1年に一度以上行ってください。火災や故障の原因となることがあります。なお、点検費用については保守契約店または工事店にご相談ください。

機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読みください。機器の接続は保守契約店または工事店にご依頼ください。

使用上のお願い

●日常点検をしてください。

万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。特に非常電源の点検は必ずおこなってください。（点検方法は「保守点検のしかた」の項をごらんください。）

●日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。修理・復旧を実費でおこないます。

くわしくは販売店にご相談ください。

●日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。必ず定期点検をおこなってください。

●保守契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持、台帳への記録が**義務づけられています。**
建物の規模、用途によっては**消防設備士**、または自治大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
非常用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店（工事店）または販売会社にお問い合わせください。
保守契約を締結していただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士（第4類甲、乙、第7類乙）」・「第2種消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。**

●分電盤のスイッチは絶対に切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。非常放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源（蓄電池）が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので分電盤などのスイッチには本体に付属の非常放送用注意ラベルを貼付し、絶対に“切”にならないようにしてください。

●設置について

- **本機の上や周囲に物を置かないでください。**
  本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障の原因となります。
  また、左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。
- **操作説明書は本機の近くに置いてください。**
  非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。
  本機の上には絶対に置かないでください。（設定した起動方式のページを透明ケースに入れてください。）
- **本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しない。またはそれらを近付けないでください。**

※高周波機器（乾燥機,医療機器など）、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器（コンピューター、電子楽器など）、空気清浄器。

●お手入れのしかた

ケースが汚れたらうすめた台所用洗剤を布にしみ込ませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、から拭きしてください。

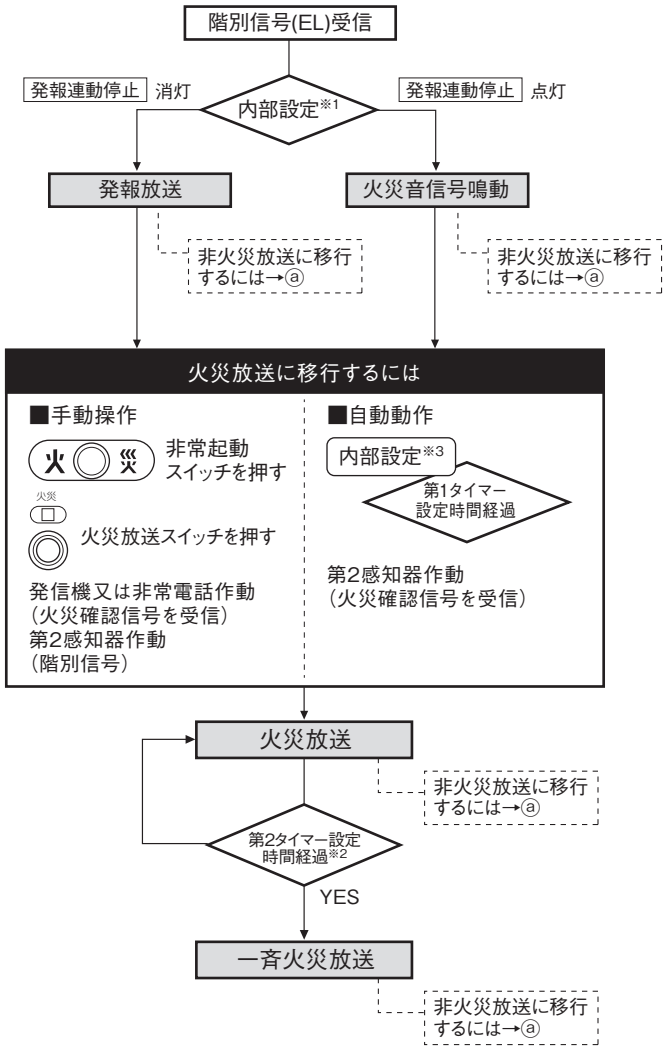
お願い

- 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。
- 化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

非常放送のしくみ

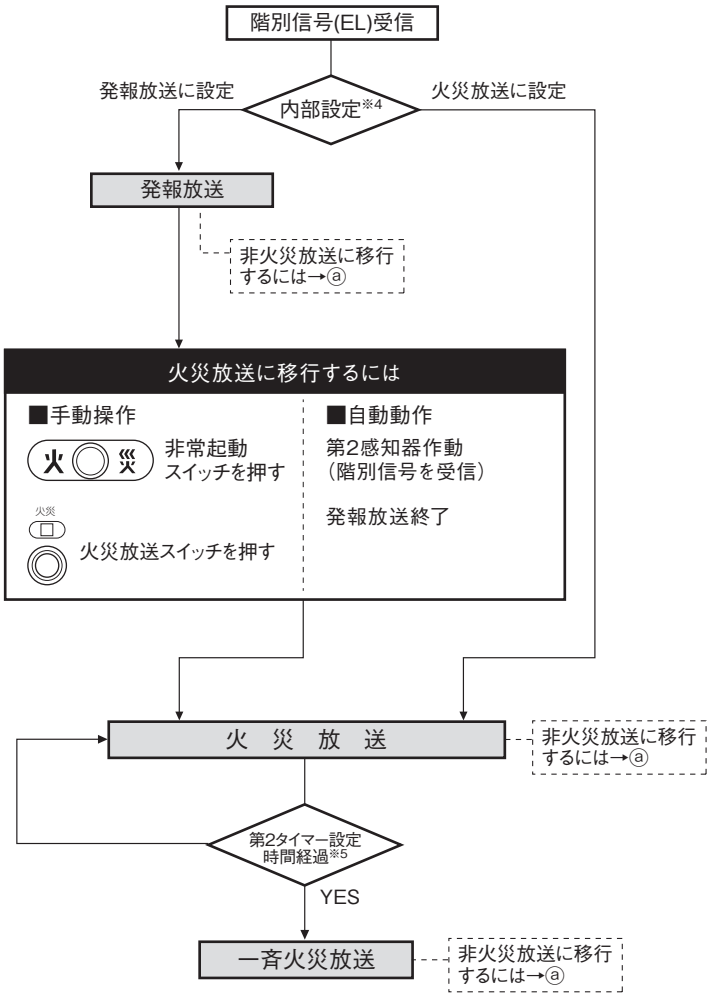
●非常用放送設備は、火災発生時に音声合成による音声警報を自動的に放送します。
もちろん、通常の呼出放送など、業務放送もおこなえます。
●起動方式により操作方法（動作）に少し差があります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。

●火災感知器による起動



※1　発報連動停止スイッチの設定内容
※2　0分、2～5分（設定内容による）
※3　第1タイマー設定値（設定内容による）

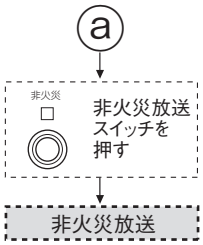
●発信機および非常電話による起動



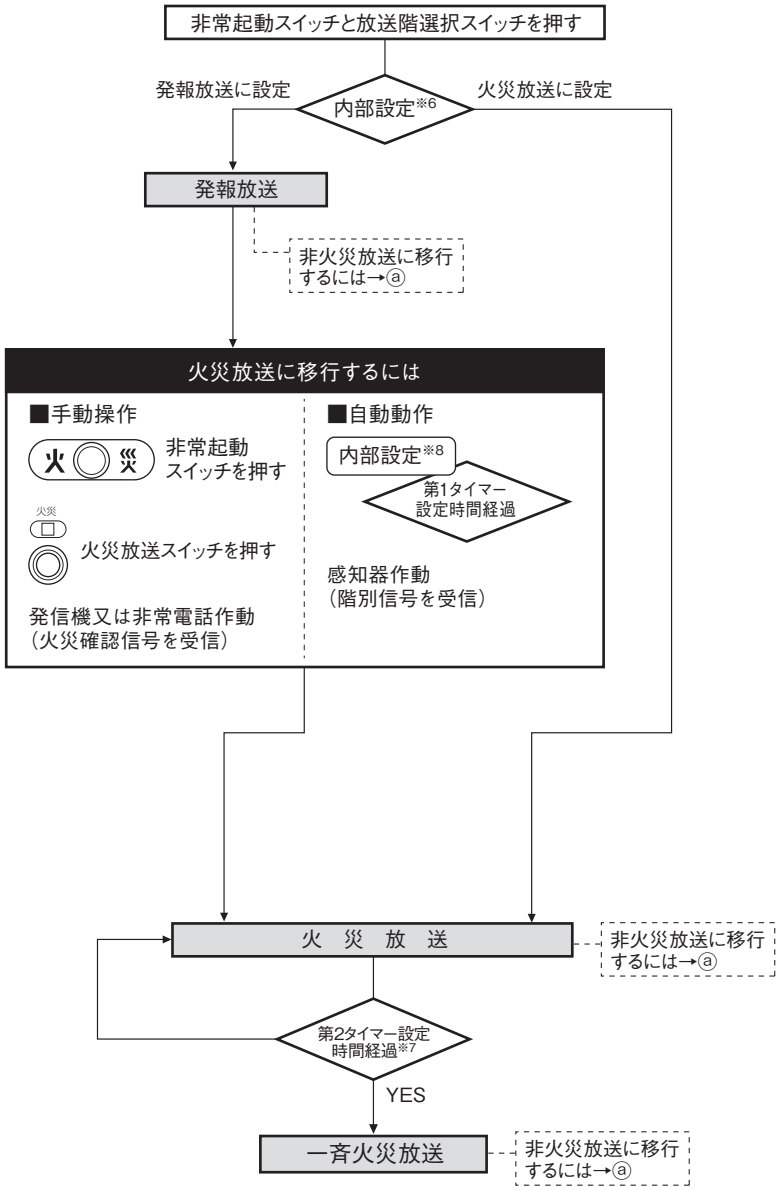
※4　発報放送／火災放送切換スイッチ（マイクドア内）の設定内容
※5　0分、2～5分（設定内容による）

●非火災放送に移行するには

非火災放送スイッチを押すことにより非火災放送に移行できます。

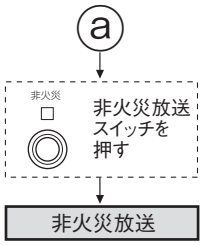


●手動による起動



●非火災放送に移行するには

非火災放送スイッチを押すことにより非火災放送に移行できます。



※6　発報放送／火災放送切換スイッチ（マイクドア内）の設定内容
※7　0分、2～5分（設定内容による）
※8　第1タイマー設定値（設定内容による）

●自火報に確認信号がない場合は、感知器起動動作になります。
●火災放送開始から一定時間経過した後、全館への一斉火災放送に移行する第2タイマー機能を有しています。

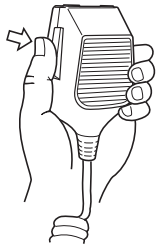
各部の名称と説明

❶マイク指示灯(オレンジ色 ◯ ③マイク)

- 非常時、オレンジ色に点滅します。
- マイク放送をしているあいだは、点灯にかわります。

❷非常・業務兼用マイク

- マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。



- マイクスイッチを押したとき、電子音(ピッ)は出ません。

❸モニタースピーカー

- マイクのスイッチを押すと、モニタースピーカーの音は切れますのでハウリング(ピー音)はおこりません。
- 音量はマイクドア内のモニター音量スイッチで切り換えます。

❽出力レベル表示

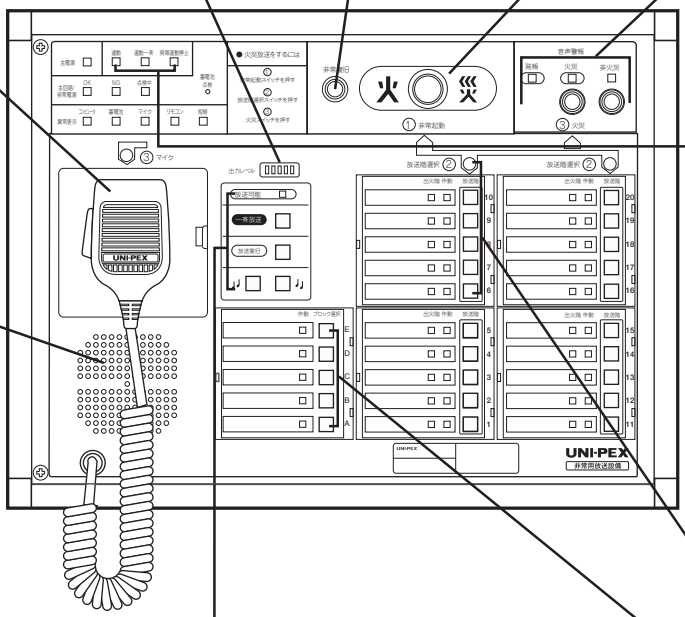
[出力レベル]

- スピーカーより流れる音の出力レベルを表示します。
- 接続された機器の音量調節は、赤色の表示灯が点灯しないよう調節します。

❾非常復旧スイッチ

[非常復旧]

非常放送を復旧するときスイッチを押します。



❹放送可能表示灯(緑色) 放送可能 □

一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチまたは、放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯し、放送可能となります。放送中に消灯したときは、リモコン放送、一般外部放送、チャイム放送などを放送中です(後押し優先方式の頂もご参照ください。)

❺一斉放送スイッチ 一斉放送 □

- 一斉放送するときに押します。
  3線式配線の場合、アッテネーター(音量調整器)が「OFF」の状態でも放送できます。
  (この場合、放送階選択指示灯が点灯します。)
- アッテネーター「OFF」のとき、放送できなくすることも可能です。

❻放送復旧スイッチ 放送復旧 □

放送が終了したら、放送復旧スイッチを押します。
(放送可能表示灯が消えます。)

❼コールサインスイッチ

放送可能表示灯が点灯している時に、コールサインスイッチを押すと、コールサインを放送できます。

♪♪ □ 上り4音を放送できます。

□ ♪♪ 下り4音を放送できます。

⑩非常起動スイッチ [非常起動]

- 手動で「非常放送」を放送するときに押します。（発報放送時または発報連動停止状態で階別信号入力時に、このスイッチを押して火災放送することができます。）

⑪火災灯（赤色）

- 階別信号からの非常起動により点滅します。
- 階別信号+火災確認信号からの非常起動により点灯します。
- 手動起動スイッチを押すと点灯します。

⑫連動表示灯（赤色）

連動表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。
マイクドア内の連動スイッチを押すと点灯します。連動表示灯と連動一斉表示灯を同時に点灯することはできません。

⑬連動一斉表示灯（赤色）

連動一斉表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると全館一斉に「非常放送」が放送されます。
マイクドア内の連動一斉スイッチを押すと点灯します。連動表示灯と連動一斉表示灯を同時に点灯することはできません。

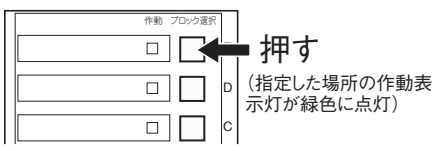
⑭発報連動停止表示灯（赤色）

発報連動停止表示灯が点灯しているときは、感知器からの階別信号を受信しても「発報放送」は放送されません。「発報放送」を放送するときはマイクドア内の発報連動停止スイッチを押して、発報連動停止表示灯を消灯状態にしてください。

⑮ブロック選択スイッチ[ブロック選択]

⑯ブロック作動灯（緑色）[作動]

- ブロック指定した場所に放送するとき押します。
- ブロック選択スイッチを押すと、ブロック指定した作動表示灯が緑色に点灯します。
- ブロック選択スイッチの復旧は、放送復旧スイッチを押します。



⑰発報放送表示灯（オレンジ色）

発報放送時に点灯します。

⑱火災放送表示灯（赤色）

⑲火災放送スイッチ

非常時、スイッチを押すと火災放送表示灯（赤色）が点灯し火災放送が放送されます。

⑳非火災放送表示灯（緑色）

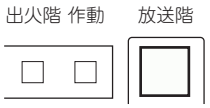
㉑非火災放送スイッチ

非常時、スイッチを押すと非火災放送表示灯（緑色）が点灯し非火災放送が放送されます。

㉒放送階選択指示灯（オレンジ色）

- 非常時（階別信号など、外部起動で非常動作になった場合）オレンジ色に点灯します。
- 手動非常動作時（非常起動スイッチON）に点滅します。この後階別信号入力や手動入力（放送階選択スイッチ、ブロック選択スイッチON）で点灯に変わります。
- 一般放送時、一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチを押したとき点灯します。（一斉放送スイッチは、書き込みによる緊急一斉指定した状態で点灯）

㉓放送階選択スイッチ



[放送階選択]

- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。（作動表示灯が点灯）（緑色）
- 放送階選択スイッチを個別に復旧するときは、再度押します。（作動表示灯が消える）
- すべてを復旧するときは放送復旧スイッチを押します。（すべての作動表示灯が消えます。）

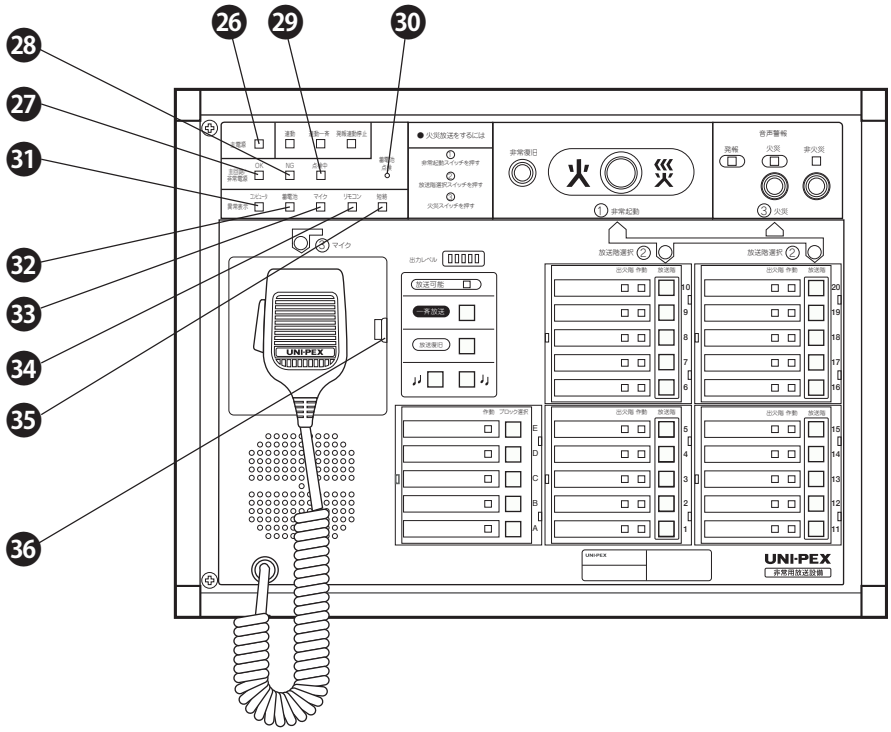
㉔出火階表示灯（赤色）[出火階]

- 非常時、階別信号により起動を受けた階の出火階表示灯が赤色に点灯し、出火階を表示します。

㉕作動表示灯（緑色）[作動]

- 放送階選択スイッチまたは、ブロック選択スイッチを押すと緑色に点灯します。
- 一斉放送スイッチを押すとすべてが点灯します。
- 非常時、出火階または連動階の作動表示灯が点灯します。
- スピーカー回線が短絡すると、短絡した階の作動表示灯が点滅します。このとき、短絡表示灯（赤色）も点灯します。販売店または保守契約店にご連絡ください。

各部の名称と説明



㉖主電源表示灯（緑色）[主電源]

- 常用電源（AC100V）が使用されているとき、緑色に点灯します。
- 非常電源（DC24V）に切り換わると消灯します。（停電時の非常動作時）

㉗主回路電源電圧正常表示灯（緑色）[OK]

通常は主回路電源電圧が正常なとき点灯します。蓄電池点検スイッチを押して正常な電圧のとき点灯します。

㉘主回路電源電圧異常表示灯（赤色）[NG]

通常は主回路電源電圧が異常なとき点灯します。蓄電池点検スイッチを押して異常のとき点灯します。

お願い

主回路電源電圧異常表示灯が赤色に点灯したときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

㉙点検中表示灯（オレンジ色）[点検中]

蓄電池点検中はオレンジ色に点灯します。

㉚蓄電池点検スイッチ[蓄電池点検]

このスイッチを押すと主回路/非常電源のOK、NG表示灯に約10秒間結果が表示されます。（OK表示灯が点灯すれば正常です。）

㉛～㉟各種異常表示灯（赤色）

- 操作パネル左上に異常表示灯（5種類）があります。点灯したとき、異常表示灯の名称を確認してから販売店、保守契約店にご連絡ください。
- 異常表示灯点灯時は警告音「ピー」が鳴り、異常をしらせます。警告音を止めるには本機のいずれかのスイッチを押してください。一時的に止めることができます。（コンピューター異常表示灯点灯時を除く）

㉛コンピューター異常表示灯（赤色）[コンピュータ]

コンピューター異常時、点灯します。

㉜蓄電池異常表示灯（赤色）[蓄電池]

蓄電池電圧が異常の場合、点灯します。

㉝マイク異常表示灯（赤色）[マイク]

マイクがなんらかの原因で断線状態になると点灯します。

㉞リモコン回線異常表示灯（赤色）[リモコン]

リモコン回線異常時、点灯します。

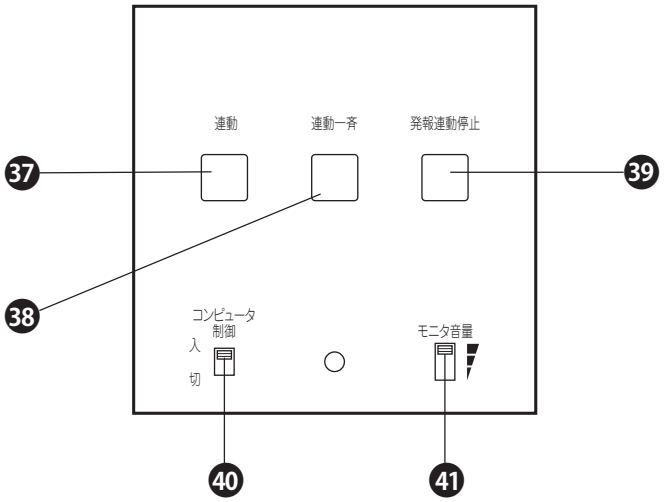
㉟短絡表示灯（赤色）[短絡]

スピーカー回線が短絡すると、赤色に点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

お願い

短絡表示灯が赤色に点灯したときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

マイクドア㊱内部



㊱マイクドア
開けると内部に設定用のスイッチ類があります。

㊲連動スイッチ
- スイッチを押すと連動状態になり、連動表示灯が点灯します。 階別信号を受信すると、出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。

㊳連動一斉スイッチ
- スイッチを押すと連動一斉状態となり、連動一斉表示灯が点灯します。 階別信号を受信すると、全館一斉に「非常放送」が放送されます。

㊴発報連動停止スイッチ
- スイッチを押す度に発報連動停止状態／発報連動状態が切り換わります。

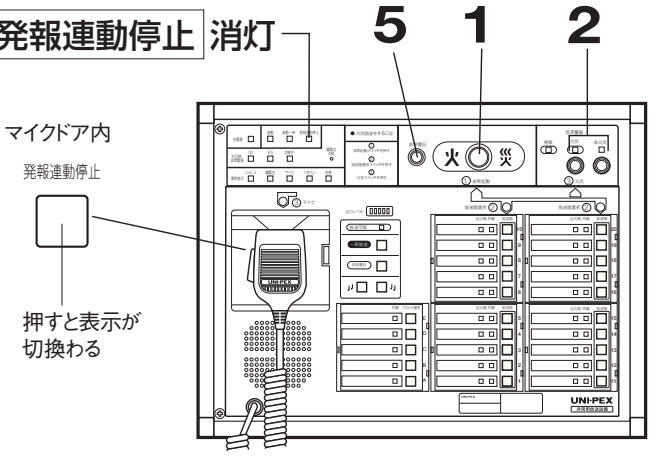
㊵コンピューター制御スイッチ
[コンピューター制御 入／切]
- 通常は「入」位置とします。
（出荷時は「入」位置です。）

㊶モニター音量スイッチ[モニタ音量]
モニター音量を3段階に切り換えできます。
（非常放送時は無効です。）

非常放送のしかた(1)　感知器起動

※ 発報連動停止 表示 ➡ 消灯時。(出荷時:消灯)
(消灯／点灯の切り換えは、マイクドア内の“発報連動停止スイッチ”でおこなう)

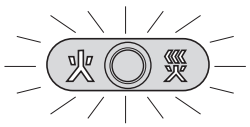
(階別信号入力)
感知器から
信号がくる。

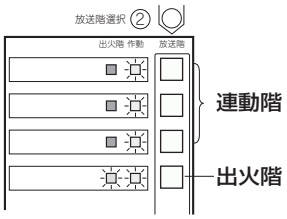


1 出火階、連動階に発報放送が放送される。

ピンポン　ピンポン　ピンポン (第1シグナル音)
「ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

(連動一斉表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。)





- ●火災灯点滅(赤色)
- ●出火階表示灯点灯(赤色)
- ●階別の作動表示灯点灯(緑色)

2 操作を選択する

- ●**火災** ➡火災放送または非常起動スイッチを押す。**3**へ
- ●**非火災**➡ 非火災放送スイッチを押す。Ⓑへ

以下の場合には自動的に火災放送されます。
・発信機起動　・第2感知器作動
・非常電話作動　・第1タイマータイムアップ(2～5分)

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン　ピンポン　ピンポン (第1シグナル音)
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー (第2シグナル音)

- ●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。→**4**へ
- ●第2タイマーの設定がOFFのとき一斉放送へ移行しません。
- ●マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。

4 「一斉火災放送」が放送される。

- ●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- ●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。

5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ 状況に応じて、マイクで放送する。(マイク放送優先)

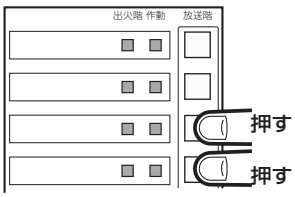
- ●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- ●火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

・放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

Ⓑ 「非火災放送」を放送するには

非火災放送スイッチを押す。

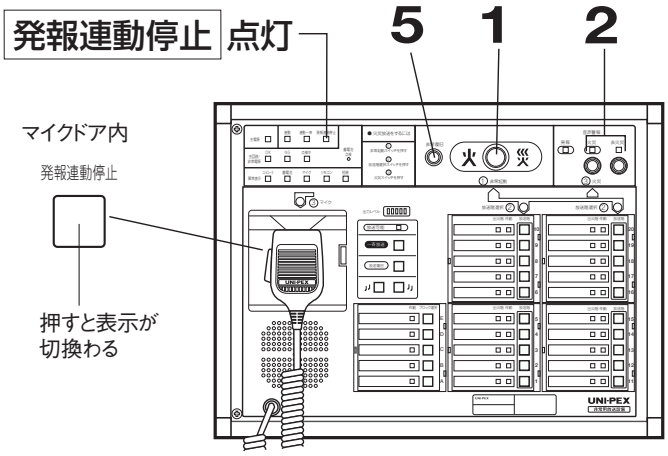
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非常放送のしかた(2)　感知器起動

※ 発報連動停止　表示 ➡ 点灯時。(出荷時:消灯)
(消灯／点灯の切り換えは、マイクドア内の“発報連動停止スイッチ”でおこなう)

(階別信号入力)
感知器から
信号がくる。

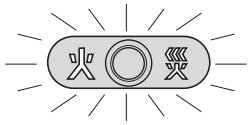
※ 発報連動停止 点灯

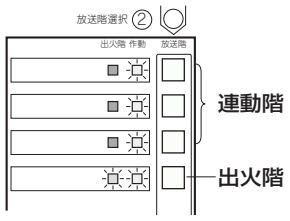


1 火災音信号が鳴る。

ピー、ピー、ピー

(発報放送は放送されません。)





●火災灯点滅(赤色)
●出火階表示灯点灯(赤色)
●階別の作動表示灯点灯(緑色)

2 操作を選択する

●**火災**　➡火災放送または非常起動スイッチを押す。**3**へ

●**非火災**➡ 非火災放送スイッチを押す。Ⓑへ

以下の場合には自動的に火災放送されます。
・発信機起動　・第2感知器作動
・非常電話作動　・第1タイマータイムアップ(2～5分)

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン　ピンポン　ピンポン (第1シグナル音)
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー (第2シグナル音)

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。→**4**へ
●第2タイマーの設定がOFFのとき一斉放送へ移行しません。
●マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。

4 「一斉火災放送」が放送される。

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。

5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ 状況に応じて、マイクで放送する。(マイク放送優先)

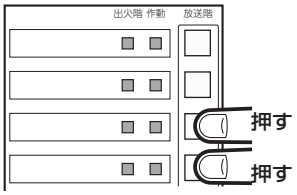
●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

・放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

Ⓑ 「非火災放送」を放送するには

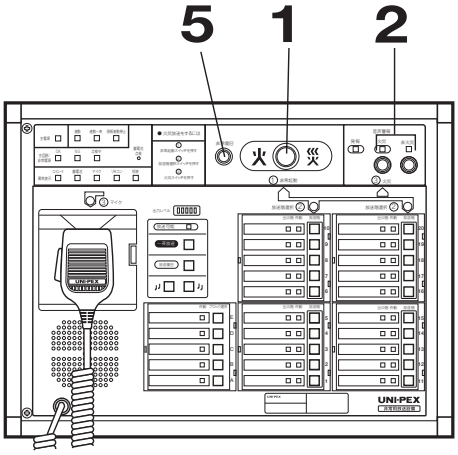
非火災放送スイッチを押す。

ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非常放送のしかた(3)　発信機・非常電話起動(発報)

(発信機・非常電話と連動)

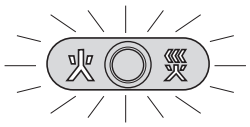
(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号がくる。

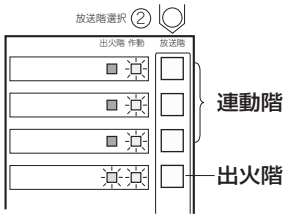


1 出火階、連動階に発報放送が放送されます。

ピンポン　ピンポン　ピンポン (第1シグナル音)
「ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

(連動一斉表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。)





- ●火災灯点灯(赤色)
- ●出火階表示灯点灯(赤色)
- ●階別の作動表示灯点灯(緑色)

2 操作を選択する

- **●火災**　➡火災放送または非常起動スイッチを押す。**3**へ
- **●非火災**➡ 非火災放送スイッチを押す。Ⓑへ

以下の場合には自動的に火災放送されます。
・第2感知器作動(階別信号)
・発報放送終了(メッセージ2回)

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン　ピンポン　ピンポン (第1シグナル音)
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー (第2シグナル音)

- ●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。→**4**へ
- ●第2タイマーの設定がOFFのとき一斉放送へ移行しません。
- ●マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。

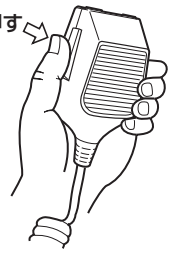
4 「一斉火災放送」が放送される。

- ●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- ●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。

5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ 状況に応じて、マイクで放送する。(マイク放送優先)



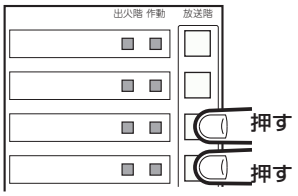
- ●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- ●火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

・放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

Ⓑ 「非火災放送」を放送するには

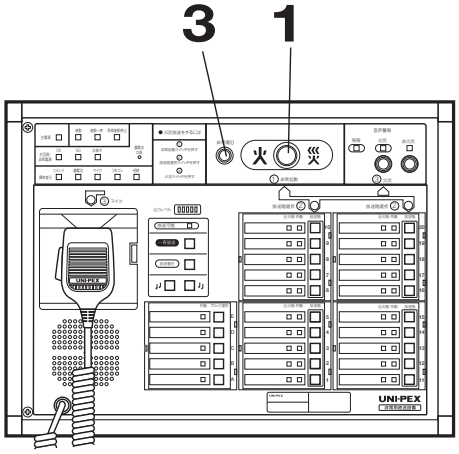
非火災放送スイッチを押す。

ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非常放送のしかた(4)　発信機・非常電話起動(火災)

（発信機・非常電話と連動）

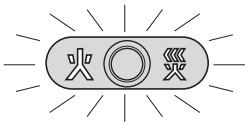
（階別信号+火災確認信号の同時入力）
発信機・非常電話から信号がくる。

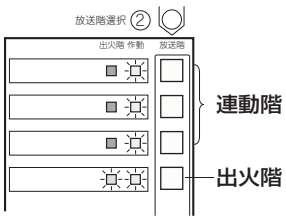


1 出火階、連動階に火災放送が放送される。

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー（第2シグナル音）

（連動一斉表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。）
●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。→**2**へ
●第2タイマーの設定がOFFのとき一斉放送へ移行しません。
●マイクのスイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます





●火災灯点灯(赤色)
●出火階表示灯点灯(赤色)
●階別の作動表示灯点灯(緑色)

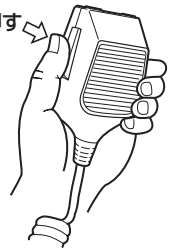
2 「一斉火災放送」が放送される。

●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
●マイクで放送する場合はⒶへ
●「非火災放送」を放送する場合はⒷへ

3 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ 状況に応じて、マイクで放送する。（マイク放送優先）

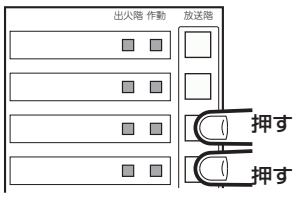


●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

・放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

②必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



放送階選択指示灯が点滅。

第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

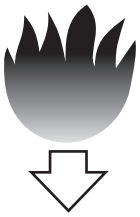
Ⓑ 「非火災放送」を放送するには

非火災放送スイッチを押す。

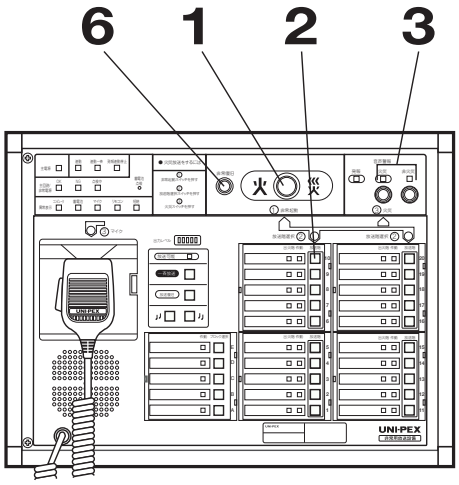
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非常放送のしかた(5)　手動(発報)

（発報放送）



手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書をご覧ください。



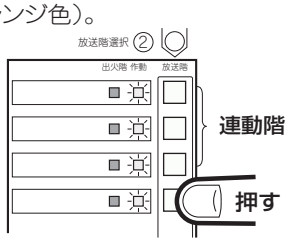
1 非常起動スイッチを押す。

●火災灯点灯(赤色)
●放送階選択指示灯が点滅(オレンジ色)

2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す。

発報放送が放送されます。
●放送階・連動階の作動表示灯が点灯(緑色)。
●放送階選択指示灯が点灯(オレンジ色)。

ピンポン　ピンポン　ピンポン
(第1シグナル音)
「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」



3 操作を選択する

●**火災**　➡火災放送または非常起動スイッチを押す。**4**へ
●**非火災**➡非火災放送スイッチを押す。Ⓑへ

以下の場合には自動的に火災放送されます。
・発信機起動　・第2感知器作動
・非常電話作動　・第1タイマータイムアップ(2～5分)

4 「火災放送」が放送される。

ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です! 火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　(第2シグナル音)

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。→**5**へ
●第2タイマーの設定がOFFのとき一斉放送へ移行しません。

5 「一斉火災放送」が放送される。

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。

6 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ 状況に応じて、マイクで放送する。(マイク放送優先)

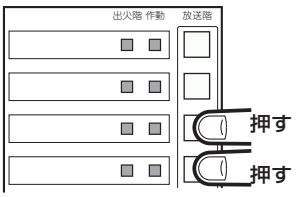
●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

・放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

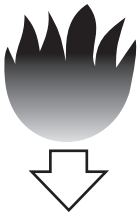
Ⓑ 「非火災放送」を放送するには

非火災放送スイッチを押す。

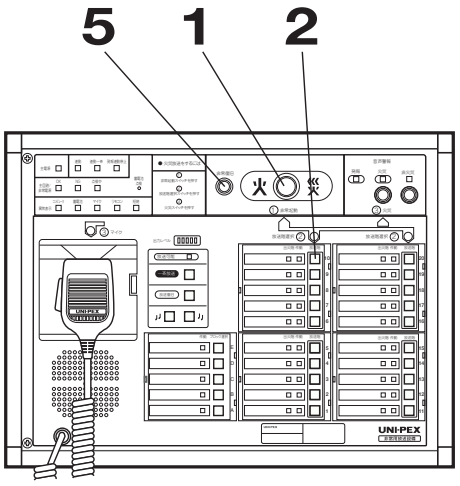
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非常放送のしかた(6)　手動(火災)

（発報放送）



手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書をご覧ください。

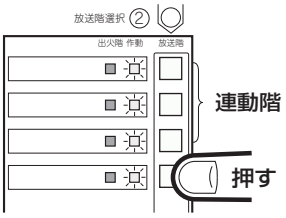


1 非常起動スイッチを押す。

●火災灯点灯(赤色)
●放送階選択指示灯が点滅
(オレンジ色)

2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す。

●放送階・連動階の作動表示灯が点灯(緑色)。
●放送階選択指示灯が点滅
(オレンジ色)



3 「火災放送」が放送される。

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「火事です!火事です!火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　（第2シグナル音）

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。→**4**へ
●第2タイマーの設定がOFFのとき一斉放送へ移行しません。

4 「一斉火災放送」が放送される。

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。
●放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。

5 非常復旧スイッチを押す

非常放送が終了します。
(感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

Ⓐ 状況に応じて、マイクで放送する。（マイク放送優先）

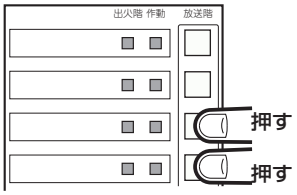
●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

・放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。

放送階選択指示灯が点滅。

②必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



第2タイマーの設定時間(0分／2～5分)を経過した後は放送復旧スイッチで復旧することはできません。

Ⓑ 「非火災放送」を放送するには

非火災放送スイッチを押す。

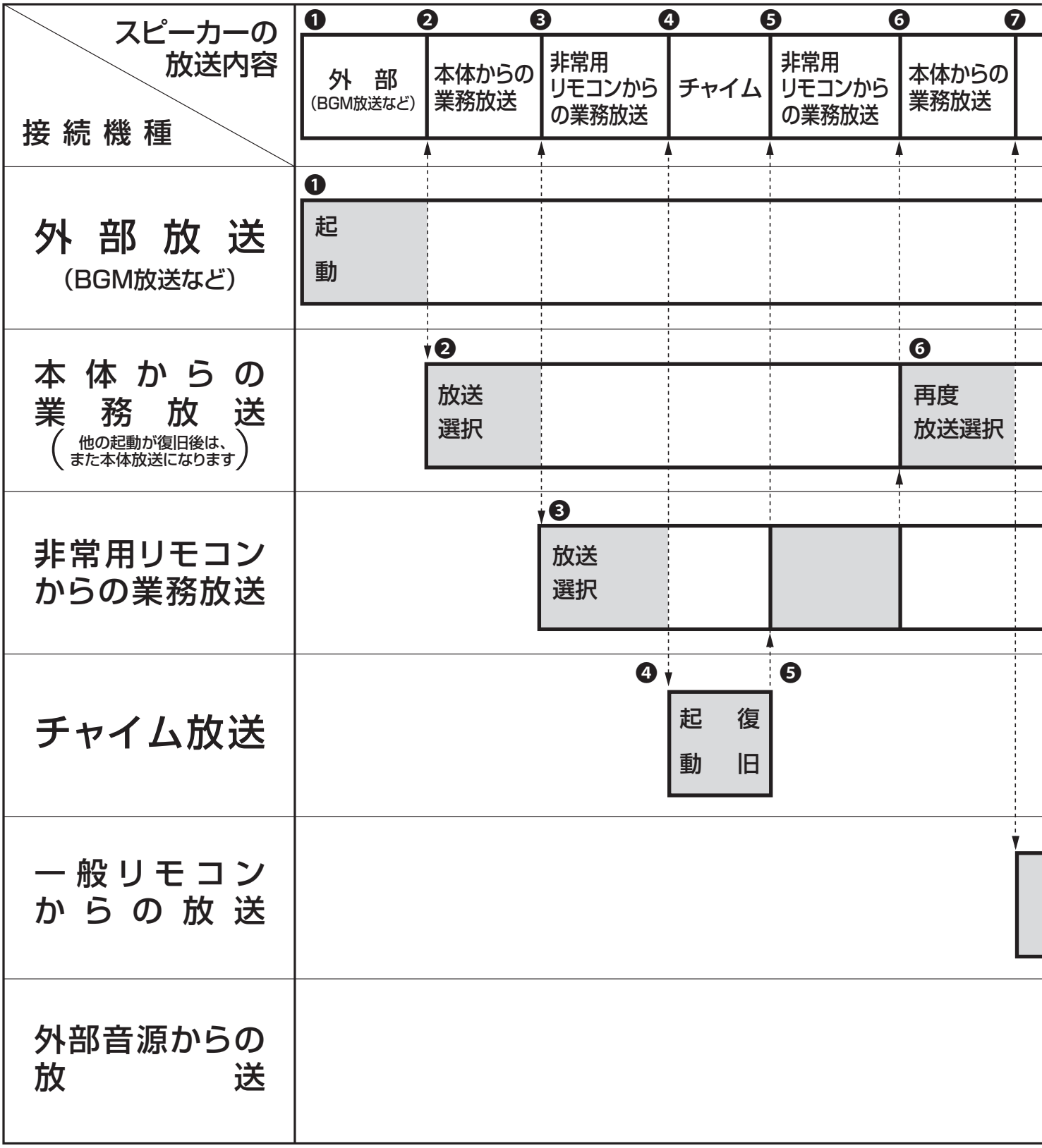
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

後押し優先方式について

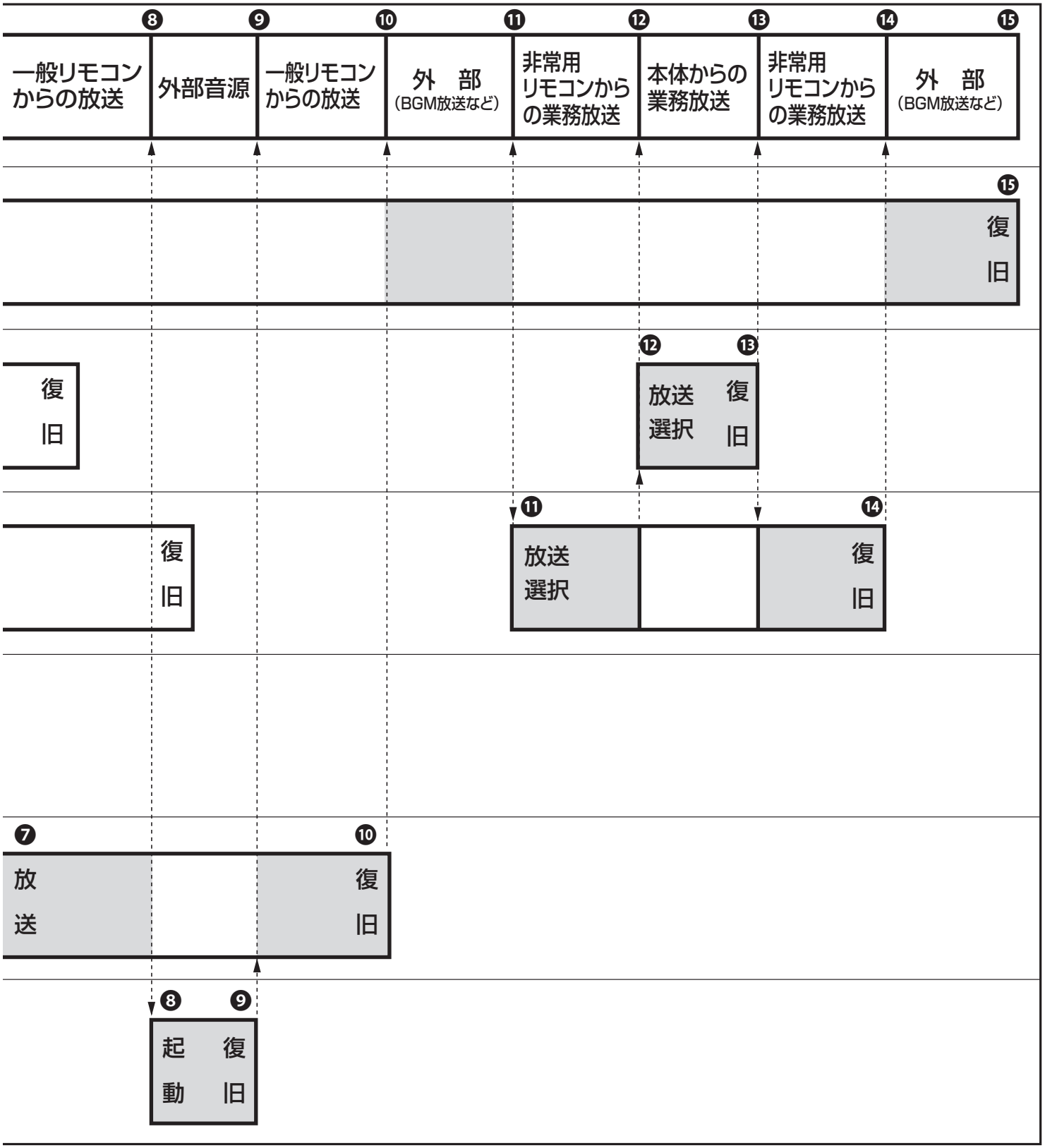
●本機は、後押し優先方式を採用しており、業務放送時には常に後から押したスイッチが優先します。
（非常放送時に後押し優先方式は働きません。）

●例えば、外部放送中に、本体のマイク放送を始めると、スピーカーからの放送は、マイク放送になります。
また、本体のマイク放送が終了し、放送復旧スイッチを押すと外部放送が復旧されていないかぎり外部放送に戻ります。

[例] 下図は、本体および本体に接続される機器の放送開始や放送復旧の流れ図を示します。



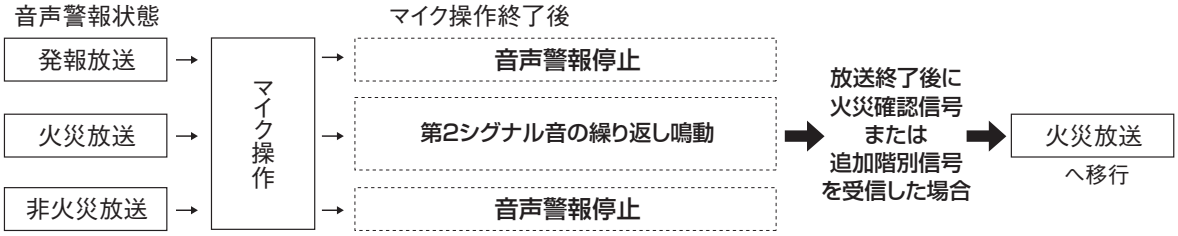
※ [　　] の個所が、スピーカーより放送されています。



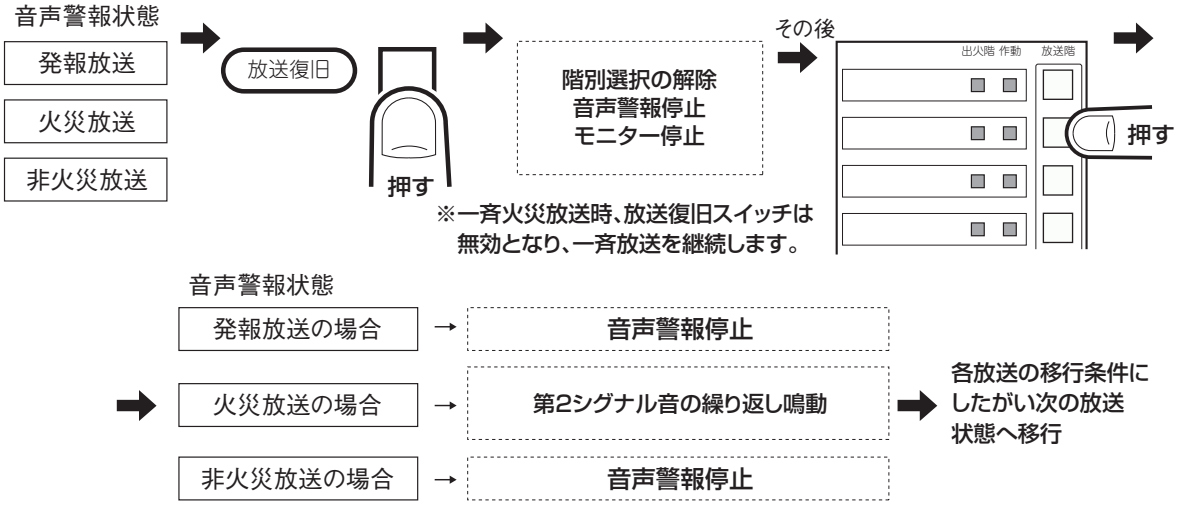
その他の動作

■非常・業務兼用マイク操作について

• 非常・業務兼用マイク操作は、音声警報状態に優先します。



■放送復旧スイッチ操作について



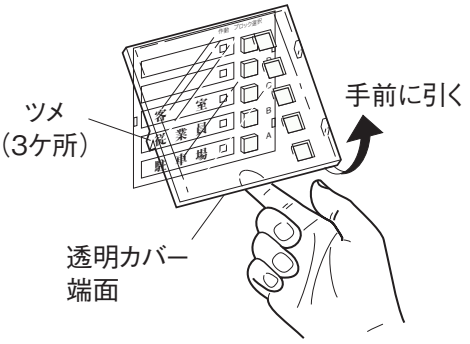
●自火報に確認信号がない場合は感知器起動動作になります。

表示カードの使いかた

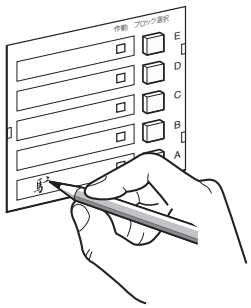
※放送階選択スイッチおよびブロック選択スイッチには、各スピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入する表示カードが付いています。

〈表示カードへの記入方法〉

• 透明カバーの上下の端面に指をかけ、手前に引いて、透明カバーを外します。
• カバーの下の表示カードにスピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入します。



• 表示カードの記入は、鉛筆でおこなうと、消しゴムで簡単に消えますので、訂正や変更が容易です。



• 記入後は透明カバーをもとの位置に取り付けてください。
• 透明カバーのツメ部分は無理に力を加えると折れてしまいますので、取り付け、取り外し時にはご注意ください。

日常点検

お願い

万一の際、確実に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。
日常点検時に異常を発見したときは、ただちに販売店または、保守契約店にご連絡ください。修理、復旧を実費でおこないます。くわしくは、販売店にご相談ください。

■点検について

- 本機にはセルフチェック機能があり、コンピューターがリモコン回線、コンピューター自身、スピーカー回線(短絡)、マイクを常時点検し、24時間おきに蓄電池の点検をおこないます。
- コンピューターが異常を発見したときは、非常操作パネル左上の各異常表示の表示灯が点灯し警告音(ブザー:ピー)が鳴ります。どこの異常かを確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。(異常は本体か非常リモコンか確認してください。)

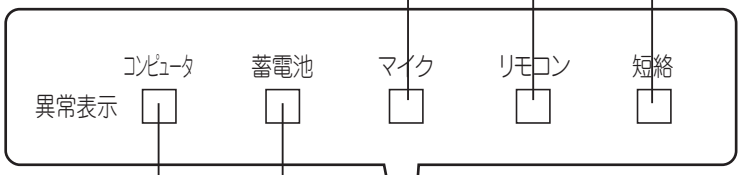
●警告音を止めるにはいずれかのスイッチを押してください。

- 一時的に止めることができます。異常表示の表示灯は点灯したままです。
(コンピューター異常表示灯点灯時を除く。)

リモコン異常表示灯(赤色)
非常リモコンとの回線が異常なとき点灯します。
異常のある非常リモコンのリモコン回線異常表示灯が点灯します。

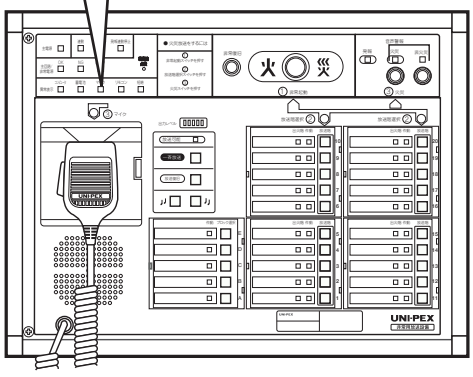
短絡表示灯(赤色)
スピーカー回線が短絡すると点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

マイク異常表示灯(赤色)
マイクが断線状態になると点灯します。リモコンのマイク異常であれば、異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。



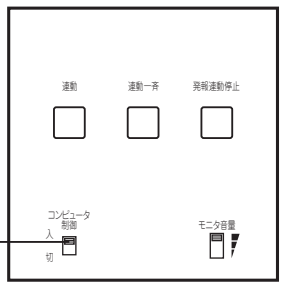
コンピューター異常表示灯(赤色)
コンピューターが異常のとき点灯します。

蓄電池異常表示灯(赤色)
蓄電池が異常のとき点灯します。
ブザーが4秒おきに鳴ります。



コンピューター異常、蓄電池異常、マイク異常、リモコン異常、短絡異常になったとき、復旧後は、コンピューター制御スイッチを「切」にしてから(リセット)、「入」にしてください。

マイクドア内

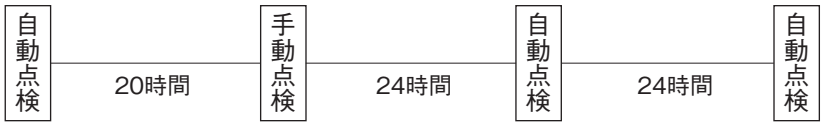


日常点検

■電源の点検

メ　モ

- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピューターが24時間おきに蓄電池の点検を自動的におこないますが、手動でも点検がおこなえます。
- 手動で点検をおこないますと、コンピューターは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



●自動点検

コンピューターが24時間おきに点検をおこないます。

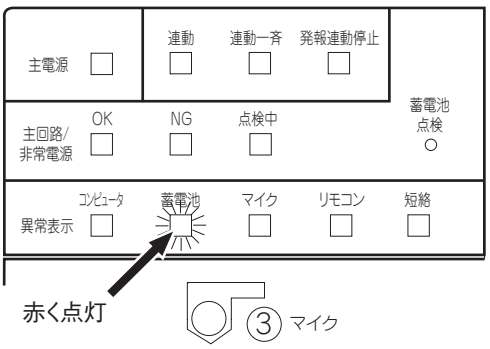
〔コンピューターが蓄電池の異常を発見したとき〕

- 異常表示の「蓄電池異常表示灯」が点灯し、4秒おきにブザー音（ピー）が鳴ります。

〔処置〕

- 操作パネルのいずれかのスイッチを押すとブザー音（ピー）が止まります。販売店または、保守契約店にご連絡ください。
- ブザー音（ピー）が止まっても異常表示灯は赤く点灯したままです。

コンピューターが異常を発見したとき



●手動点検

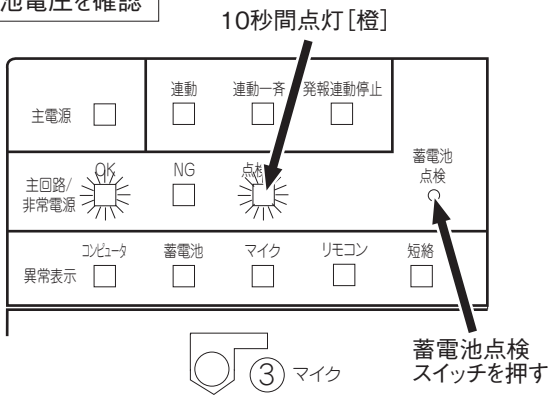
1.主回路電源電圧を確認してください。

非常用放送設備本体の非常電源電圧点検スイッチを押さないときに、主回路／非常電源のOK表示灯（緑色）が点灯していることを確認します。

2.蓄電池電圧を確認してください。

蓄電池点検スイッチを押して、主回路／非常電源のOK表示灯（緑色）が点灯していることを確認します。点検中表示灯（橙色）が約10秒間点灯します。

蓄電池電圧を確認



⚠注意

蓄電池の電圧の点検は、非常用放送設備本体も含め1日の点検で2回以内までとしてください。
指定回数より多く蓄電池点検スイッチを押したり、押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、非常時に本システムが動作しなくなる恐れがあります。

日常点検

●蓄電池(非常用放送設備側)の交換について

⚠注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する

感電の原因となります。

電力増幅ユニット(出力)	ニカド蓄電池
	品　　番
PWA-060(60W)	MBT-060
PWA-120(120W)	MBT-120
PWA-241(240W)	MBT-240
PWA-361(360W)	MBT-240

- 蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。
- 点検の際容量不足があれば、新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。

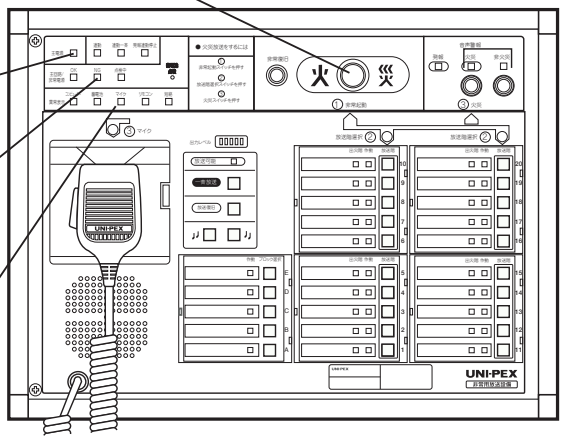
Ni-Cd

このマークはニカド電池のリサイクルマークです。ご使用済のニカド蓄電池は貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないで、ニカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

こんなときには

すぐに販売店または、保守契約店にご連絡ください。

- 非常起動スイッチを押しても火災灯が暗い。
- 主電源表示灯が消えている。
- 通常で使用時、または「蓄電池点検スイッチ」を押したとき「NG」が点灯。
- 各異常表示灯のいずれかが点灯。



保守点検のお願い

- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が**義務づけられています。**
- 建物の規模、用途によっては**消防設備士**または、自治大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
- 当社では非常用放送設備が正しく動作するために、締結をおすすめします。
- 保守契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。**

定格

電源	DC 24V	
消費電流	EWR-010B	EWR-020B
	200mA	230mA
周波数特性	50Hz～15kHz	
ひずみ率	1%以下	
非常・業務兼用マイク入力	−46dBV 600Ω 不平衡 AGC付	
予備入力	−22dBV 10kΩ 不平衡	
リモコン出力	0dBV 600Ω 平衡	
出力レベル表示	5ポイント発光ダイオード表示	
モニタースピーカー	0.4W 8Ω アッテネーター付(3段階切換) ハウリング防止回路付	

主回路電源 電圧表示	蓄電池電圧 プッシュノンロック切換方式
制御回路	放送階選択 10回線＋一斉(EWR-010B) 20回線＋一斉(EWR-020B) ブロック選択 5局
寸法	幅430mm×高さ320mm×奥行60mm (突起部除く)
質量	約 4.2 kg(EWR-010B) 約 4.3 kg(EWR-020B)
仕上げ	パネル、本体ケース:マンセル5Y8／0.5 近似色 (ライトグレー)

■付属品

操作説明書……1
工事説明書……1
取扱説明書(保証書付)……1
操作説明書透明ケース……1
グロメット……1

サポートのご案内

■ **修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。**
販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。
①品 名 ②品 番 ③お買い上げ日 ④故障の状況(できるだけ具体的にお願いします)

■ **販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。**

営業所情報はホームページ
もしくは2次元コードにアクセス
してください。
https://www.unipex.co.jp

■ **その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。**

UNI-PEX お客様ご相談センター
0120-56-5245 通話料無料
受付時間／9:00～17:00(土・日・祝日除く)
携帯電話からのご利用は、
072-855-3334(通話料がかかります)

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

非常用リモコン EWR-010B、EWR-020B 保証書

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 年 月 日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部) 6ヶ月
お客様	お名前 様 ご住所 〒 電話( ) -
販売店	店名・住所 印 電話( ) -

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。
お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社

保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
(This warranty is valid only in Japan)

無料修理保証の範囲
①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
②修理の際は必ず保証書の提示があること。
③当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲
(次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。)
①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
②不当な修理改造による故障、損傷。
③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
④お買上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。